

## 第2 教育研究団体の意見・評価

### ○ 全国英語教育研究団体連合会

(代表者 博田 英明 会員数 約60,000人)

T E L 03-3267-8583

#### 1 前 文

1990年から2020年まで実施された「大学入試センター試験」が廃止され、2021年より「大学入学共通テスト」が新たに開始され、今年で3年目となる。従来センター試験からの変更点は、配点が50点から100点へと倍増したこと、「多様な話者による現代の標準的な英語を使用する」という観点から「イギリス英語」も使用されていること、さらに「1回読み」問題が導入されたこと等があったが、受験者にとっては少しずつ新しい形式への慣れが出てきているとも思われる。今年度も、「知識の理解の質を問う問題や、思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる問題を重視する」という共通テストの問題作成方針がしっかりと反映されたものとなった。後に詳述するが、形式・内容は前年度と変わらず、難易度については前年度に引き続きやや易化したと思われる。丁寧に準備した受験者にとっては、十分な対応ができたと考えられる。令和4年度から実施された新しい高等学校学習指導要領(外国語)では、「統合的な言語活動を通して『聞くこと』、『読むこと』、『話すこと [やり取り]』、『話すこと [発表]』、『書くこと』の五つの領域を総合的に扱うことを一層重視する科目」と、「話すことと書くことによる発信能力の育成を強化する科目」がそれぞれ新設された。外国語でコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための言語活動を充実させることを目標としており、共通テストにおいてはこれらの目標を反映した問題作成を引き続き追求していくことが必要である。2023年度の大学入学共通テスト利用大学・専門職大学・短期大学は、870大学となり、内訳は、国立大学が82校、公立大学が94校、私立大学が535校、公立短期大学が12校、私立短期大学が139校、公立専門職大学が2校、私立専門職大学が6校となっている。今後も利用が進んでいくことが予想される。リスニング受験者数は本試験と追・再試験を合わせ464,931人で、前年度の480,053人からは若干減少している。教科選択率は98.1%となっており、英語の成績が文系理系を問わずすべての受験者の大学合否に大きく関与していることがうかがえる。本試験の平均点は、一昨年度(共通テスト(1))が56.16点、昨年度は59.45点、今年度の平均点は62.35点であり、前年度よりも2.9点上昇し、60点を超えた。共通テスト実施3年目で、受験者がしっかりと事前に準備ができるようになったことも一因であると考えられるが、難易度についてはやや易化したといえる。読み上げられた英語の総語数は約1,541語(昨年度は約1,532語)でほぼ変わらず、設問と選択肢の総語数は約564語(昨年度は約562語)で、こちらも前年度並みとなった。

## 2 試験問題の程度・設問数・配点・形式等

大問	配点	マーク数	出題内容	読み上げ回数
1	25	4	A：短文内容一致問題	2
		3	B：短文イラスト問題	
2	16	4	対話文イラスト問題	2
3	18	6	対話文選択問題	1
4	12	8	A：モノログ図表完成問題	1
		1	B：複数のモノログ選択問題	
5	15	7	講義内容選択問題	1
6	14	2	A：対話文（2者）選択問題	1
		2	B：対話文（4者）選択問題	
合計	100	37		

出題形式、配点、読み上げ回数については、今年も変化はなく、第1回共通テストから3年連続ということになった。内容面で、イラストやグラフ、表が数多く使用されており、単純な英語の聞き取りに加えて場面や目的に応じた思考力・判断力が問われることや、話者についてはアメリカ人話者やイギリス人話者だけではなく、日本人と思われる非ネイティブ話者が含まれていた部分も昨年度と同様であった。また、各問の解答時間について若干ではあるが改善が見られ、受験者が余裕をもって取り組めるようになった。

第1問 短い発話を聞いて、内容に関する選択肢を選ぶ問いである。Aは短い発話を聞き取り、設問の問いに最も適する選択肢を選ぶ問題。状況を要約したり、発話から推測できることを判断したりする力が求められた。Bでは短い発話を聞いて、設問で求められる内容に合致する絵を選ぶ問題であり、内容を正確に把握する力が問われた。難易度としては標準レベルであり、設定も日常的なもので、短い発話から状況や情景を把握させ、絵という視覚情報を選択させるという設問形式は好ましいものである。短い発話であるため、やや唐突に始まる印象があるが、問5が物体、問6が風景、問7が人物の服装等の描写という順番及び内容も昨年と同様であり、受験者も落ち着いて解答できたと思われる。

問1 後半の「ドアを閉めてくれない？」という発言からthe speakerの発言の趣旨を理解する問題。

問2 「ボウルは洗い終えたがフライパンはまだ洗い始めている」という発言からthe speakerの状態を説明する文章を選ぶ問題。

問3 「叔父がカナダから送ってきたこのはがきを見て」という発言の内容を聞き取る問題。内容も選択肢の英文も平易。

問4 「20人の生徒が教室にいて、昼食後に更に2人来る」という発言を客観的に描写した選択肢を選ぶ問題。

問5 「ボトルには余りお茶が残っていない」という発言と合致するイラストを選ぶ問題。

問6 読まれる英文から牛の位置を選ぶ問題。第1文のI can't see any cows.だけで判断すると誤答になる。

問7 「黒いパンツをはいてスケートボードを抱えている」を聞き取って、その内容に合致する絵を選ぶ問題。電話をしているという場面設定がイラストからはやや分かりにくかったかもしれない。

第2問 短い対話を聞き、設問に合致するイラストを選ぶ問題。日本語で示されている場面の情報を把握し、聞いた内容から適切なイラストを選ぶという複合的な作業を求めている。これまでもあった形式ではあるが、設問に示されている日本語の情報把握が重要である。短い時間の中で、複合的な作業を素早く行うことを要求しているため、与えられる状況は日常生活に根差している事柄や、現代的なテーマを用いることによって、受験者にイメージしやすいものが設問とされることが望ましい。難易度としては標準レベルであるが、イラストの設定については、今年は思考に負担をかけるようなものは少なく、改善されたと感じるため、今後もこの傾向が維持されることを期待する。

問8 対話の内容からthe womanのプロフィール画像 (avatar) を選ぶ問題。SNS等の普及により、今日的な話題であり、正答率も高かったが、バーチャルイベントという設定は情報としては不必要であったかもしれない。

問9 対話でthis / that / itと代名詞で描写されたものを類推させる問題。forを聞き取れないと解答するのは難しい。実際の日常生活に根差した場面設定であると言える。

問10 店員と客の会話から客が購入する靴を選ぶ問題。示された絵も分かりやすく、平易な問題であった。

問11 野球場の案内図のピクトグラムから待ち合わせ場所を選ぶ問題。ピクトグラムが扱われるのは3年連続である。今年はピクトグラムが示す内容 (ロッカーや食べ物) については把握しやすいものであり、配慮が感じられるものであった。一方で、会話の場面設定については混乱を招かないよう、より明確に設定することが必要なのではないか。

第3問 短い対話を聞き、設問に合致する最も適切な選択肢を選ぶ問題。第2問と同様に、日本語で示されている場面の情報を把握し、概要や要点を目的に応じて把握する力が問われている。またこの問いでは、「イギリス英語」が使用されている。「多様な話者による現代の標準的な英語」を使用するという点で、この傾向は好ましいものであると考える。場面の設定も自然なものが多く、受験者にも負担をかけるようなものはなかったが、正答率が著しく低い問題もあり、分析が待たれるところである。

問12 Central Stationへの行き方を尋ねる対話から、the manが最初に乗る地下鉄を問う問題。

問13 会話の内容からこの後夫婦がとる行動を問う問題。男性の最後の発言の最終部insteadが聴解できれば容易に解答できる。

問14 会話の内容からthe boyがとった行動を推測する問題。「生徒の身近な暮らし」に即した内容の対話であり、好ましい。

問15 先輩と新入生の会話から新入生について分かることを問う問題。Englandとthe UKが混在しているが、grew upとwas bornの違いで解答を導くことが可能。

問16 同僚同士の会話。runny noseやallergies in the springなど特定の症状をにおわせる表現から場面を把握しやすかったと思われる。また、drop byやon his way homeなどの慣用的で生徒も比較的慣れ親しんだ表現が使われている。

問17 友人同士でペットについて話している問題。adoptの理解が重要となるが、選択肢でも語が示され、対話中에서도言い換えにより説明がなされているので十分に推測可能である。

第4問 Aは読まれる説明を聞き、図表を見ながら空所を埋めていく問題。今年は昨年度出題されたイラストを時系列に並べる問題ではなく、令和3年度に出題されたグラフが再び扱われた。ただし今年は円グラフではなく、棒グラフでの出題となった。Bでは、四人の話者の説明を聞き、設問に合致する選択肢を選ぶ問題。複数の情報を聞き、情報を比較しながら思考する力が問われている。聞き取った内容と資料を結び付けて考えさせる問題は、日々の授業運営にも影響を与え

るものとして望ましいと考えているが、解答にはある程度の時間がかかることも引き続き考慮されたい。また、複合的な作業が求められるので、提示されるグラフや表などの資料の内容を理解する際に混乱が生じないような工夫を心掛けたい。

問18～21 大学の授業で先生が「職業選択の際に重要となる4つの要因」について、2011年と2021年を比較する内容。「仕事の内容」、「収入」、「場所」そして「労働時間」といった要因ごとの違いの聴解に加えて、the second most chosen answer in 2011など、同じ年度での比較をしている部分の聴解も求められた。

問22～25 自宅のパソコンから参加しているオンラインゲームの国際大会の結果と賞品についての説明を聞き取る問題。結果の表の読み取りができれば取り組みやすい問題であった。

問26 留学先の生徒会会長選挙の前の四人の会長候補の演説を聞き取り、条件に合う候補者を選ぶ問題。学校生活に関連する話題であり、示された条件も適切で、実生活においても経験するような場面を扱っており、好ましい問題と言える。また、アメリカ英語とは異なるアクセントの英語が含まれている。2番目の話者（Jun）は日本人のようにも感じられる。

第5問 「アジアゾウに関する講義」を1回聞き、設問に合致する最も適切な選択肢を選ぶ問題。ワークシートとして示されているものを活用して、ノートテイキングをすることが必要になる。聞き取った内容とグラフから読み取れる情報を組み合わせて要点を把握する複合的な作業を必要とする。情報を素早く正確に把握・整理する必要があり、高い集中力が求められ、難易度としては高い。日々の授業運営にも影響を与えるものとして望ましい出題である。聞き取る講義の内容が、示されたワークシートと同じ順番になったことで、受験者にも取り組みやすく、解答時間も短縮されたと思われる。また、昨年度と同様の形式であったため、事前の準備も十分にすることができたと思われる。

問27～32 ワークシートに入るべき事項を選択肢から選ぶ問題と講義の内容を選択させる問題。1回読みで、なおかつ情報の処理や解答行動のための時間をある程度要するが、次の音声がかかるまでの時間についてはやや改善が見られた。また、上述のように、流れる音声にしたがってワークシートを埋めていくことができることで、スムーズに解答できるようになった。

問33 図から読み取れる情報と講義全体の内容から言えることを選択する問題。「スリランカでゾウを保護するためにとられた対策は、まだ望んだ結果を生み出していない」という数の増減に直接的に言及していない選択肢が正解となっている。

第6問 Aは「ハイキングについて」の二人（母と子）の会話を聞き、設問に合致する最も適切な選択肢を選ぶ問題。話者の発話の要点を把握する力が問われている。Bは「就職後に住む場所」に関する四人の学生の会話を聞き取り、設問に合致する最も適切な選択肢を選ぶ問題。昨年同様、それぞれの話者の賛否の立場を正確に把握し、意見に合う図表を判断する力が問われた。話者の声や英語にそれぞれ特徴があり、それぞれの名前も頻繁に登場するので、誰の発言なのか分かりやすく、配慮が感じられた。また、話者の一人（Kota）は日本人であるように聞こえる。

問34～35 日本語で書かれた状況を踏まえて、話者の主張の要点と合致する選択肢を選ぶ問題。

問35 問題の英文はやや長めだが、その一方で選択肢は補語の形容詞のみが異なる短いものであり、難易度は低かったと思われる。

問36 四人の話者のうち、誰が街の中心部に住むことにしたかを問う問題。

問37 会話の内容を踏まえて、ある話者（Lisa）の意見を反映している表を選択する問題。

### 3 総評・まとめ

「大学入学共通テスト問題作成方針」に示されているように、「高等学校教育の指導のねらいと

する力や大学教育の入口段階で共通に求められる力を踏まえたものとなるよう、出題教科・科目において問いたい思考力・判断力・表現力等を明確にした上で問題を作成する」という方向性を反映した問題であった。例えば、聞き取った内容から話者の次の行動を推測したり、発言の内容から話題についての話者の態度（肯定的か否定的か等）を判断したりするという行為は日常生活でも頻繁に行っていることであり、英語を使用する場面や状況であっても欠かせない。こういった出題傾向が継続することで、教育現場での授業への波及効果がより高まることが期待できるし、それが実際に英語を運用する能力の向上にもつながると考えられる。また、第4問以降で扱うトピックの選定については大変工夫をされていることとを感じる。英語に限らず様々な授業で扱われたり、日常的に社会で話題となっていたりするようなトピックについては、受験者は予備知識を持ったうえで解答に臨むことができる。したがって一部の問題については、受験者の持つ知識と与えられた文字情報により、問題の内容を予想することが可能となる。このような問題は、話される内容を予測したり、聞き取るべき内容やポイントをあらかじめ用意してから聞いたりという能動的に聞く態度が必要とされるので、望ましいものであると考える。

#### 4 今後の共通テストへの要望

今年度の平均点は昨年度よりも更に3点近く上がり60点を超えたが、これが受験者の共通テストへの適応によるものなのか、問題の難易によるものなのかについては分析が望まれるところである。第1問から第3問については、引き続き、より自然な発話や状況設定を追求することをお願いしたい。上述したように、聞き取った内容から話者がとるであろう行動を予測したり、発言の意図をくみ取ったりするような問題は日常生活でも頻繁に行っている行為であり、思考力や判断力を問うものとして好ましく、英語運用力を高めるものでもあると考えるので引き続き取り扱ってほしい。その一方で、英語の知識や表現力を問うような出題についてもリスニングの試験においても常に検討していただきたい。

場面の設定について、近年の社会的状況も考慮されていたのだと思われるが、バーチャルイベントやオンラインでのゲームの国際大会などが扱われたが、受験者が自然に理解できる、または多くの受験者が経験したことがあると思われるような設定を心掛けていただきたい。今後は学校生活や授業での一場面を想起させるような設定も更に増えてもよいのではないかと考える。

また、共通テスト実施以来言われていることであるが、「思考力」を問うことと「情報処理能力」やその速度を問うことが同義的になるような問題設定は避けるべきである。この点については今後のテスト作成においても十分に配慮していただきたい。